

## 第 24 回 国土交通中部地方有識者懇談会 議事要旨

日時：平成 26 年 10 月 7 日（火）15:00～16:30

場所：KKRホテル名古屋 3階 芙蓉の間

### ■総括（須田座長）

#### ○スーパー・メガリージョンについて

- ・オリンピック・パラリンピックや北陸新幹線などの国家プロジェクトの恩恵を日本全体に波及させるという観点が、スーパー・メガリージョン構築の議論には不可欠である。

#### ○ユーザーの視点に立つ

- ・インフラ整備・活用に関しては、利用者から見た使いやすさ等、ユーザーの視点に立った記述を加える。
- ・この提言書に関しても読み手の視点に立ち、読み易さを高め、用語の使い方について精査するとともに、ポイントを明確に示した簡潔な要約版を作成する。

ユーザーの立場に立って見やすい提言書にし、スーパー・メガリージョンの構築を通じて、国家プロジェクトの恩恵を、全国に波及させるきっかけとなるビジョンにしていきたい。

### ■各委員の主な意見

#### （奥野委員）

- ・国土計画でやるべきことは、文化を守り育てることであると認識している。この提言では、その点が記述されており素晴らしいと思う。
- ・全国レベルの有識者の議論の中では、スーパー・メガリージョンに対する意識が薄いと感じる。そこでスーパー・メガリージョンについては、中部から情報発信を積極的に行うべきであると感じる。
- ・スーパー・メガリージョンの中で、首都圏機能の再配置をどうするかという議論はあまりなされておらず、中部において、我々はその点を考える必要があると認識している。
- ・リニア中央新幹線の開業は中部圏と首都圏だけでなく、中部圏と北陸圏の一体化ももたらず。この中部圏と北陸圏の一体化が大きな意味を持つものと認識している。

#### （水谷委員）

- ・財政状況などを考えると、やるべきことを絞り込む必要がある。国としてやるべきことは、基本的なインフラ整備であると考えている。

- ・インフラは充実してきたが、その分、保守・整備は大きな課題となる。インフラの保守・整備については、基本的なこととして、しっかり対応していく必要がある。
- ・防災についてはやるべきことは無限にあり、どこまでやってもこれで十分ということはない。官で対応するにしても限界もあり、やるべきことを絞り込む必要がある。

#### (東委員)

- ・P3の「(強み) 良好な自然景観、まちなみを有する」では中部の自然景観、歴史、港、東海道の街道筋等の多彩な景観形成を、総合的に捉まえるような記述にしていきたい。
- ・P9に「環境・景観の先進地域への挑戦」とあるが、挑戦という言葉をどのように捉えれば良いのか。説明をお願いしたい。
- ・環境を再現する技術力に関しては「挑戦」でもよいと思うが、景観は地域の人たちと共につくっていくものだとの認識している。そこで景観形成については、もう少し市民の方々にとって身近な言葉を用いて記述してはどうか。
- ・女性の社会進出のための基盤整備について記述していただきたい。
- ・中部の魅力はダイナミックな自然景観と、そこで営む人々の集落や田園、港であると考え。そのような地域の特性を踏まえた記述をお願いしたい。
- ・中部地方には大規模なインフラが点在している。それらを記述し、国土の構造を明確にしていきたい。

#### (大和委員)

- ・この提言をどのように活用するのか、主体はどうするのか等、実現に向けた姿が今後問われていくと思うので、議論を続けていただきたい。
- ・このようなビジョンを担っていく公共セクターのあり方、柔軟性や可変性が今後問われていくものと思う。

#### (小出委員)

- ・内容は非常に良いが、全体として簡潔性に極めて欠けている印象である。中部の一般の方が読んで、その心をかき立てられるようなロマンや哲学が必要である。
- ・人口減少が進み、今後の日本は色々な面でマイナスの要素が出てくるようになる。活発さより落ち着き、奥行きのようなものが求められ、それに伴いあらゆる指標がこれまでと変わっていくものと認識している。そのような流れを受け止めた上で、この地域の落ち着き・奥行きをどのように深めるのかを記述する必要がある。
- ・当地域のものづくりは、既存のものを組み合わせて強みを出す組み合わせのものづくりなので、その特徴を踏まえるべきである。
- ・三英傑の行ったことが現代においてどのような意味を持つのか、そして、それに誇りを

持つということを記載していただきたい。

- ・読み手の立場に立った分かりやすい資料にするために、具体的なファクトによる説得をもう少し入れても良いのではないか。

**（中村委員）**

- ・「まち・ひと・しごと」ではなく「ひと・まち・しごと」という、人が一番目にくるべき。
- ・リニア中央新幹線の開業は計り知れない経済効果をもたらすと思うが、そのストロー現象による人口流出等も懸念しなければならない。
- ・自動車産業も海外移転が増加しており、ものづくりだけではなく第一次産業とのバランスを考える必要がある。適疎適密ということを考え、全産業がバランスよく発展しなければならない。
- ・新しい企業誘致、事業創出を考えなければ、海外移転が進み、中部では空洞化が進むと懸念している。

**（日置委員）**

- ・大都市と農山村間や国際的な交流を進行させるために、利用しやすさに配慮したネットワークという観点が重要になると思う。
- ・財源の制約はあると思うが、高速道路の料金を下げれば利用しやすさにつながり、利用量が増えることで、結果的に収益に反映されるのではないか。
- ・ハード面でのネットワーク整備と、利用しやすいインフラというソフト面の二つの観点を持っていただきたい。

**（河上委員）**

- ・近年の気象の変化に対応したハードの再評価や、強化が今後必要になると認識している。
- ・P 1 1の「激甚化する自然災害への柔軟な対応、懸念されるスーパー伊勢湾台風への対応」で、土砂管理機能の維持を図るためには、保水機能を高める森林の適正な管理が重要となってくるので、この点を記述していただきたい。

**（事務局代読：上田委員）**

- ・このビジョンの実現には、行政・財界の各機関が大同団結して中央にアピールすることが必要だと感じている。
- ・東京オリンピック・パラリンピックで訪日する外国人に、中部ならではの観光や文化交流を展開できるよう、当地域の総力を結集してハードとソフトの環境を整備していくことを謳うべきではないか。
- ・その実現のためには弊社をはじめ、経済界も協力できることが大いにある。

(須田座長)

- ・オリンピック・パラリンピックや北陸新幹線のような国家プロジェクトの恩恵を日本全体に波及させる必要がある。そのためにスーパー・メガリージョン形成の議論がある。
- ・国家プロジェクトの恩恵を日本全体に波及させるために、中部が間に立って働きかけるという気概でまんなかビジョンをまとめる必要があると感じた。
- ・中部は東西と南北に接している。南北との連携・活性化のためになにをなすべきかが重要である。

以上